令和７年度　第２回府中町廃棄物減量等推進審議会　会議録

日時：令和７年12月24日（木）13：00～14：50
場所：くすのきプラザ　２階　研修室

１　開会

２　委員紹介

３　会長、副会長の互選
会　長：三浦　浩之（広島修道大学国際コミュニティ学部）
副会長：根木　文彦（府中町南部町内会連合会）

４　（審議）府中町第２次ごみ処理基本計画の策定について
【質問・回答等】
会　長：課題を踏まえた方向性と基本方針の表現が異なっているが、一致させた方がわかりやすいのではないか。
事務局：わかりやすさや計画内での整合を図るため、表現方法を検討する。

会　長：基本方針２について、４つ目のＲを加えた４Ｒという考え方もある中で、あえて３Ｒとした理由は。また、24ページの住民の役割について、食品ロス削減はリデュースに含まれるのではないか。
事務局：広島県及び近隣自治体では３Ｒが採用されており、４Ｒと比較して３Ｒの方が住民にも馴染むのではないかと考えた。また、食品ロス削減は重要な取り組みの一つである認識しており、あえて３Ｒとは別で表現している。

委　員：22ページのリサイクル率について、2024年度の目標23.2%に対して実績17.4%と目標が未達成である中で2030年度の目標を26%と設定していいのか。
事務局：廃棄物処理法の基本方針において、目標値が26%と設定されており、国の目標に合わせて設定した。今後、施設整備等の実施に当たり、国の交付金を活用するためには国の目標値との整合性を確保する必要があると考えている。リサイクル率の目標達成に向けては、プラスチックの分別回収を検討していく必要があると考えている。

委　員：リサイクル率26%の達成が2030年までの大きな柱となるという認識でよいか。
事務局：その認識で問題ない。
委　員：山元還元や紙ごみの資源化推進といった柱が他にも必要ではないか。
事務局：山元還元や紙ごみの資源化推進の効果も考慮したものとなっている。山元還元を除いた目標が23.3%、山元還元を含めた目標が26%となる。

会　長：8.6%ではなく8.6ポイントという表現が正しいのではないか。
事務局：修正する。

委　員：32ページの出島廃棄物処分場の残容量について、埋立容量が限界に達するとの表現ではなく、事業終了と表現するのが正しいのではないか。
事務局：誤解を生む可能性があるため表現を検討する。

委　員：大型ごみに有価物が含まれているケースがあると思うが、大型ごみのリサイクルについて今後どのように進めていくのか。
事務局：現在、環境センターでは大型ごみの中から有価物の回収を行っており、今後も継続して取り組んでいく。また、2026年度からリチウムイオン蓄電池の分別収集の実施を予定している。併せて、現在大型ごみとして回収している小型家電を埋立・有害ごみとして分別収集することを予定している。

会　長：有料化の検討は大型ごみに限定したものか。
事務局：安芸クリーンセンターからも大型ごみ削減の要請をされており、現時点では大型ごみの有料化を優先すべきと考えている。
会　長：大型ごみの有料化で効果があれば、普通ごみの有料化も検討するのか。
事務局：計画目標値の達成状況を踏まえ、普通ごみの有料化についても検討していく予定である。

会　長：31ページの表について、１人あたりの大型ごみ排出量が少ない自治体を見たときに、その要因として有料化を行っていることを表現したいのであれば、排出量が少ない順に並べた方が良いのではないか。
事務局：検討する。

委　員：学校給食の残菜は、児童の食べ残しか調理時の残菜のどちらか。
事務局：残菜量は食べ残しとして把握している。

委　員：プランター等、分別回収されていないプラスチックをRPF化するといった取り組みを行ってはどうか。

事務局：検討する。

委　員：環境学習はどのような形式で行っているのか。
事務局：体験講座や座学といった形式で実施している。
会　長：一方的に情報を伝えるよりも自ら考えるような学習を行っていくとよいのではないか。

5　閉会

以上